



第459回 8/6 NPO法人
ワーカーズ・コレクティブ ケアビーくる

会員の竹浦博美さんと理事の首藤雅代さんをお迎えしました。高齢者や障がい者、公共交通機関の利用が難しい方々に対し、車を用いた有償の外出支援を提供しています。メンバーが出資し、運営も共同で行う「ワーカーズ・コレクティブ」の形態を取り、地域社会に貢献しています。竹浦さんは運転会員として利用者の送迎や買い物のサポートを行い、首藤さんは運転業務の他に6人のチームで運行管理も担当しています。活動は、外出支援全般にわたり、病院での手続き代行や付き添いも行います。運転者不足という社会問題に直面しながらも、地域の住民が互いに支え合う活動を続け、新たなメンバーを募っています。興味がある方はぜひ参加を検討してください！



第460回 8/20 サークルありんこ

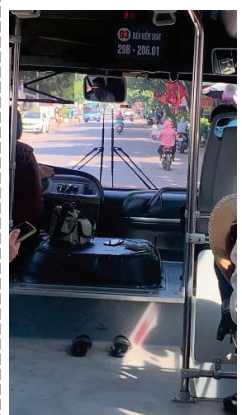
会長の村田伸彦さんと書記の岩崎沙也花さんをお迎えしました。子ども会のイベントを盛り上げる中高生集団で、昭和56年度ジュニアリーダー研修会(県子連主催)をきっかけに設立された。現在は18名が所属。村田さんと岩崎さんが中心となり、地域イベントでの活動を通じて、子どもたちと共に成長を目指しています。今年度は、市民まつりや自主研修、西口風鈴まつり、わくわくこきキャンプなどに参加し、さまざまな体験をしました。11月には「ふれあいひろば」での活動が予定されており、地域住民との交流を深めます。村田さんは少林寺拳法の全国大会出場者で、受験を控える高校3年生、岩崎さんは二十歳を迎える大学2年生です。



サークルへの参加は随時募集中で、興味のある方はぜひ大和市こども・青少年課までお問い合わせください。

☆9月の出演 第461回 9/2 やまと国際フレンドクラブ(IFC) 第462回 9/17 いちよう下和田団地連合自治会 FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~9:30 同日再放送 15:00~15:30

TSUBASA's トーク 第34回 バスを乗り間違えた話



8月の長期休みを使って、ベトナムのハノイを訪れた。仕事を通じて知り合ったベトナム出身の友人たちに会いに行きつつ、初めての1人の海外旅行を楽しみたい、現地の生活を知りたいと思ったのが始まりだ。到着の次の日、空港近くのホテルから友人に会いに行くため、バスで市街地の大学に向かうことになっていた。振り返ると、見通しの甘さが明らかなのだが、今回の旅行で私は持ち運びできるWi-FiやSIMを用意していなかった。つまり、私のスマホは現地のホテルやカフェ以外では電波が通じず、友達とも連絡が取れない状況だった。

友人からは、事前に私がホテルにいるときに、待ち合わせ場所についてのベトナム語の文面と、乗り換えるバスの案内を受け取っていた。「この文面をバス内の切符売りに見せれば、正しいバス停で降ろしてもらえ。乗り換えて、待ち合わせ場所の大学に行ける」と友人に言われ、これらを頼りに会いに行くことにした。

ホテル近くのバス停から2時間半、バスは高速道路を通過して、川幅の広いソンホン川やハノイの街、ジャングルなどを超えていった。途中間違ったバス停で降ろされながらも、なんとか切符売りが「ここだ」というバス停で降りることができた。

降りて周囲を見渡すと、農地の広がる中に一軒大きな大学が建っていて、道路は人も車も通らず静かだった。ただ日差しだけが強かったのを覚えている。私の他に男子大学生1人しか降りなかった。大学の敷地内に友人がいると思い、大きく手を振ってみたが、大学の門は閉まっていて、中には1人もいなかった。

「しまった。違うバス停で降ろされた」と思い、急いで一緒に降りた学生にベトナム語の文面を見せて、「場所はここで合っているか」と尋ねた。すると、彼は「Really far from here (ここからとても遠い)」と話す。現在地から50km戻った先の、別の大学とのことだった。気を利かせてくれた学生は、迎えに来た彼の兄の原付に3人乗りさせてくれて、大学生が集まるより大きなバス停まで運んでくれた。

2人は「学生に質問して待ち合わせ場所まで行って」と話した。拙い英語でしかお礼を伝えられず、握手をして別れたのが惜しかったが、3人乗りして見た農地と道路だけの景色はいまだに鮮明に覚えている。

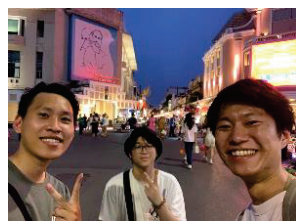
そのバス停にいた別の男子学生も、市街地に戻るバスの中で、道に迷った私を励ましてくれた。先ほどの大学の学園祭でパレードをやった話や、バスから山が見えれば、最近彼が行った登山の話をしてくれた。バスを私が降りるときも「困ったら周りの人たちにひたすら道を尋ねて」と言ってくれた。

無事ハノイの街に戻り、まず友人に連絡するため、カフェのあるデパートでチャットを開くと、泣いた顔文字や、「しんぱいです」「連絡ください」といった言葉がずらりと並んでいた。既に待ち合わせ時刻から4時間が過ぎていた。デパートに迎えに来てくれた友人からはひどく叱られた。

「尾畑さん、海外旅行で大切なのは、インターネットと現金ですよ。道に迷ったら近くの人に頼んでどうにか連絡してください。勉強しましたか?」「はい」と答えるしかなかった。

また、後にわかったことだが、友人の送ってくれた乗り換え案内の行き先は、待ち合わせの大学ではなく、田舎にある友人の実家になっていたらしい。到着して早速、ベトナムの人たちの、見知らぬ外国人さえも助ける人当たりの良さを知った。

以前、日本でその友人に「尾畑さんは仕事たまに冷たいです」と言われたことがあった。それを振り返ると、ベトナムから1人働きに来て、日本語を練習中の彼に、「ある程度は自分で考えて」とどこか拒む態度をとってしまったと、申し訳ない気持ちになった。私は1人ベトナムに来て、彼の苦勞を思った。(サポーター 尾畑翼)



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第206号 発行日：2024年9月10日 発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西 1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第206号 2024年9月10日 大和市民活動センター【拠点やまと】発行

9月号
2024



ベテルギウス玄関
9月4日の生け花

表紙絵は
「やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催
やまと国際アートフェスタ 入賞作品
を毎月掲載しています

今回のテーマ
「ここから、未来へ」

画廊喫茶オルセー賞受賞

上嶋ラムショウ里音(りお)さん
中央林間小学校6年生(当時)
ルーツはイギリスです

タイトル

世界に水と食べ物を

メッセージ

みんなが平等に楽しく生きることが
できるように気持ちをこめま
した

☆「やまと国際アートフェスタ」は、「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年開催されています。

*「IFC」は、草の根の国際交流、外国人支援を行っている、「ともにくらすまち大和」を考えるボランティアグループです。



令和6年度協働事業提案の検討結果(8/28:水) 「協働事業として8事業の推進が決定」しました。

- ★ふれあいの森ドッグラン運営管理 結の会/みどり公園課
・会員登録説明会の企画運営 ・大同伴の公園清掃 ・ドッグランの運営及びイベント企画
- ★地域で支え合う「のりあい」を走らせよう 地域と市との協働「のりあい」/街づくり総務課
・バス事業者との協働(添乗者による利用者サポート) ・地域での協働(バス停の維持管理等) ・広報発行、地域交流会の開催
- ★生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」 NPO かながわ難民定住援助協会/国際・男女共同参画課
・日本生活の経験ある外国籍市民を対象に生活に役立つテーマを選び日本語の知識や文化などに理解を深めていく場を設ける。
- ★地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業 渋谷さきりん未来の会/図書・学び交流課
・会議室、特別教室 貸し出しなどを通じた市民活動の活性化事業 ・地域ニーズに基づいた生涯学習の推進支援事業
・下和田地区の児童館機能、近隣住民の居場所としての事業 ・伝統/交流/環境等に関するイベント企画等 ・情報発信事業
- ★外出介助サービス事業 NPO ワーカーズ・コレクティブケアビーくる・NPO 大和市腎友会・NPO たんぽぽ/障がい福祉課
・障がい者や高齢者などの移動制約者の外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的とする。(3つの協働事業者による)
- ★みんなでつくる安心のまち事業 大和女性防犯会/生活あんしん課
・防犯キャンペーンの実施・歓楽街対策、防犯パトロールの実施・子どもの見守り活動、地域における防犯講話の実施など

夏休み このゆびとまれっ！ボランティア活動を小学生、中学生、高校生、短大生が体験しました!!

今夏の「ボランティア体験このゆびとまれっ！」は、高校生、中学生に加えて短大生、小学生も参加して、延べ49名が市内7団体に体験学習を行いました。昨年に引き続き体験した人も、今回初めてのボランティアで緊張した人も。

ボランティアを受け入れていただいた団体の活動内容は、アジアの国々への支援、芸術文化の振興、高齢者支援、視覚が不自由な方々の交流、乳幼児とその保護者支援、こども食堂活動、多文化共生と多様ですが、共通点は、意思ある人がつながって、地域、社会に貢献しようとしていることだと思います。

そんな活動に、今回応募したこどもたちは、ほんの少し触れることができました。

これらの体験が、今後のみんなの人生の小さなヒントになりますように。ご参加ありがとうございました。

NPO 法人 WE21 ジャパン大和 (7月24日、30日)



中高生ボランティアの受け入れ団体「NPO 法人 WE21 ジャパン大和」からは「2日以上参加できる人」の条件がありました。この活動を通して「チャリティショップ」「リユース・リサイクル」「フェアトレード」など学ぶことは盛りだくさん！こんなことを並べると腰が引ける感じですが、実際の店内では楽しく色々な体験ができた様です。気付いた事は「地元で馴染んでいる」「地域の人たちとの交流がある」「気楽におしゃべりができる」「そんな場の雰囲気なのです。」

きっと中高生にとっては「リサイクル」や「リユース」の作業を現場から見て日常生活を顧みながら何か『もったいない！』の気持ち『資源の節約』などを感じたと思います。ここで感じた「ちっちゃな」思いが将来大きな感覚に育って行くように思われました。(M)



今年「このゆびとまれっ！」に手を挙げてくれた生徒たちは部活動や塾通いなど、忙しいスケジュールの中からこの活動を選んでくれた頑張り屋さんばかり。みんなありがとう!!

子育てほっとサロン「大和たんぽぽの会」 (8月5日、19日)



たんぽぽの会の会場の準備から参加をさせていただきました。スタートの時には少し緊張もありましたが、子どもたちが来たら、みんなすぐに打ち解けて楽しくボランティア体験をすることができました。

たんぽぽの会には、安全に遊ぶおもちゃがたくさんあって、会場内を走り回ることのできるのも、子どもたちの元気の凄さに、びっくりする場面もありました！

また、絵本の読み聞かせや、和紙を植物などで染める貴重な体験などもさせていただきました。

さらに、保護者の方からも話しかけていただき、子育ての楽しさや大変さなどを直接聞くことができました。

ここが、親子でつづることができると大切な居場所であることを実感しました。最後に、スタッフのみなさんには、ご指導をいただくだけでなく、体験の感想なども聴いていただき、充実した体験ができたことに感謝します。(S)



一般社団法人こども食堂プロジェクト at やまと (8月18日、25日)

福田、鶴間と2箇所1日3名ずつ、2日間に渡りお弁当作りのお手伝いをさせていただきました。事前に「こども食堂」の説明と参加のレクチャーを受け、当日は驚くほど大量の野菜を前にひたすら剥いたり刻んだり、おそらく初めての経験だったと思いますが、みんな一生懸命取り組みました。作ったおかずを詰めてお弁当の形にして発送できるまでの準備はスピードが必要ですが、スタッフさんたちの温かく丁寧なご指導のおかげで時間に間に合わせることが出来ました。発送を終えた後の晴れ晴れしたみんなの表情が印象的でした。(H)



やまと国際フレンドクラブ(8月24日)



牛乳パックと北島家の高機で織ってみた

夏休み体験教室「まなべ〜」まゆから糸作り・機織り体験」という郷土民家園北島家で開催された講座に、中高短大生のボランティア7名(全員女子)が参加し、参加した小学生と保護者11組の体験の手助けをした。

開催した北島家は、下鶴間で養蚕を営んでいたお家、当然冷房はなく、参加者はみんな汗だく。講師の染色の吉田さん、あかはね動物病院の赤羽院長と娘さんの深鳥さん、IFCメンバー、スポーツ・よか・みどり財団のスタッフを合わせると40人を超えていただろうか。でも、参加したこどもたち、おとうさん、おかあさん、ボランティアのみんなも集中力を切らさず、糸つむぎ、牛乳パックの機織り機を使った編み、民家園の実際の機織り体験など、真剣に楽しみました。みんなお疲れ様！そして初めての体験ができてよかったね！(F)



講師の深鳥さんの資料から

ボランティア7人女子

みんなで織った作品は、10月のやまと国際アートフェスタ会場に展示される

デイサービスハッピー鶴間 (8月2日、9日、16日、21日、23日)



5日間に渡り、のべ12名が参加しました。ネームプレートの裏面に各自ニックネームを書いたことが会話のきっかけになったとか？お話を耳を傾けたり、一緒にトランプや卓球バレーをしたり、笑い声が絶えない2時間あまりを過ごしました。デイサービスを利用されている方々はみんなのおじいさま、おばあさまの年齢に近いでしょうか。

一生懸命に、でもとても自然な形で話しかける様子は微笑ましく、年齢を超えた笑顔の交流ができたと思います。(H)



サウンドテーブルテニスクラブ (8月5日、15日)

視覚が不自由な方の卓球「サウンドテーブルテニス」の練習に2日間で小学生2名、中学生3名、高校生2名の計7名が参加しました。実際にラケットを手にして練習に参加させていただき、プレイする楽しさと聴覚を研ぎ澄ましてプレイする難しさを知ることが出来たのではないかと思います。メンバーの方々の熱気溢れる練習試合に見惚れながら、球拾いや得点ボードめぐりなど積極的に関わろうとする様子は頼もしいものでした。(H)



大和市芸術文化振興協会 (7月26日)



今年みんなが作ったうちわは去年と違い、布や塗り絵などを使いうちわの形に切り取り貼り付けて、デコレーションができるようになりました。各自各々絵具で絵を書いて布を張り、立体感が生まれる作品や自分の手足に絵具を塗り、うちわに手形や足形を付けて成長の記録を作るお子さんもいました。みんな和気あいあいとおしゃべりながら楽しい雰囲気で作っていました。(Y)

8月の展示コーナー



皆様、こんにちは！ここRigelでは、地域の未来を担う起業家たちが日々奮闘しています。

各ブースには個性豊かな事業者が入居し、それぞれの目標に向かって情熱を注いでいます。古着販売、フットケア、美容サービス、学習支援、映像制作・地域社会デザインと、多彩な分野で活躍中です。

ぜひ各テナントにお立ち寄りいただき、新しい出会いや発見を楽しんでください。



足の健康堂おかちや

Rigelに入居している5起業家の共同展示。初めての試みでこれからも注目です

ほかほか亭マリア

MYSELF YOURS

スタジオソララド



寺子屋もくもく



MYSELF YOURS